

### 第3回首都圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会 議事概要

- 日 時：平成27年5月14日（木） 16:00～18:00  
場 所：TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター ホール6A  
出席者：出席者名簿のとおり  
議 事：（1）首都圏広域地方計画 骨子について  
（2）第3回首都圏広域地方計画協議会及び第3回北関東・磐越地域分科会の主な意見について  
（3）首都圏広域地方計画中間整理（案）について

#### 主な発言内容

##### 委員

- ・高齢者参画社会、女性の活躍については触れられているが、障がい者の参画や活躍についてもどこかで触れてほしい。テレワークの実現等が挙げられており、育児中の女性や高齢者など、通勤は困難だが自宅であれば働ける人のために、今後非常に有望だと考える。ここに障がい者も取り入れて、目標のひとつに入れていただくと良い。
- ・国際的な観点では、ダイバーシティの中には、女性と障がい者が必ず入っている。よって、少人数かもしれないが、障がい者対策は社会が果たすべき役割のひとつだと思うので、検討してほしい。
- ・「成長産業の育成」の箇所で、ロボット、AI、ICTが並列に記述されているが、ロボットやAIはICTの一部として記述したほうが良い。
- ・国際化について、国外から研究者や学生を呼び、日本からも積極的に海外へ出ていくということだが、アメリカでPh.Dを取得した学生は、処遇などの観点で日本には帰らない。どうしたらPh.Dを取得した学生が日本に戻る気になるか考える必要がある。
- ・アジアからは日本に留学生がたくさん来ているが、欧米からの留学生が少ないことも課題ではないか。
- ・海外に出て行く場合、中国人やインド人などはコミュニケーション能力が高いので、例えば、日本人の研究者のためにコミュニケーションの準備コースなどがあると、海外でもすぐに溶け込み、限られた時間で成果を上げやすいと考える。

##### 委員

- ・資料1-1の1枚目の首都圏の現況と課題が印象的。
- ・大渋滞が起って困っている、物流が滞っている、大気環境が汚れている等の喫緊の問題はなく、全て将来の問題であるというところが、現在は恵まれた状況にあるということを物語っている。
- ・このような状況を今後も維持したいのか、今後どうしたいのかというところを一言書き込んだほうが良いのではないか。
- ・恐らくそれは成長ということなのか。多くの成長は見かけ上、人口増によってもたら

されていることが多い。そうした際に、人口をどうしていくのかということを書いたほうが良いのではないか。

- ・発展も大事であり、東京一極集中を是正する場合に、その発展を阻害するような言い方はしないほうが良いのではないか。
- ・資料 3-2 に、都市別世界トップ 300 企業数の記載があるが、東京は北京に次いで 2 位であり、東京にも集中している状況。
- ・これを良しとするならば、東京一極集中を是正するのではなくて、東京の一極集中と地方創生を合わせてやるべきなのではないか。そのほうが、都市としての活力が失われないのではないか。一極集中是正と軽々しく書かないほうがいい。
- ・防災をメインストリーム化することには意義がある。土地利用計画に最初から防災と持続可能性に配慮することを書くのが良いのではないか。
- ・資料 3-3 の最後に地球気候変動災害対策とあるが、聞き慣れない言葉であり、地球規模環境変動災害、あるいはグローバルリスク対策などに変えてはどうか。

#### 委員

- ・情報流通に関する記載が見当たらない。
- ・共生するにも対流をするにも、一生懸命取組んでも、自然に首都圏の人にその情報が届いたり、海外の人に届くわけではない。
- ・その地方で何が起こり、どのようなことをしているのか、発信するだけではなく、情報を受け止められた方から帰って来たボールをどう返していくか、流通をどうやっていくかということが、国内の人にとっても、海外の人にとっても大事な事なので、もう少し書いたほうが良いのではないか。

#### 委員

- ・全ての課題は漏れなく抽出されていて、プログラムも書かれているが、これまでの固定観念の中での負の部分の正に転ずるプログラムが払拭されていない。
- ・課題抽出も良いが、その先の夢とか希望があったほうが良い。
- ・どんどん現実的になっているが、これだけの日本の中心をどうするかということは日本という国をどうするかということであり、魅力につながるようなことがどこかにないとダメなのではないか。
- ・そのためにも総論的なものが、資料のどこかにあると良いのではないか。
- ・問題解決のための資料と言う趣が強すぎるので、もう少し躍進的な記載が欲しい。
- ・具体的には、何をやるのか、どこからどう手を付けるのか、ひとつひとつ詰めなければならない。
- ・一番重要な部分だけでも、具体的な解決策を論ずるべき。

#### 委員

- ・東京圏の問題、東京圏と首都圏、さらに広域首都圏の関係、そして三大都市圏の新たな連携、それらが一体となり世界に立ち向かっていく。そういう枠組みの中で資料 1-1、1 ページ目では、全部の問題[課題]を網羅的に書かれているのだが、どこに力点を入れていくかが見えにくい。
- ・すでに走っていて実績を持ってやれそうなものと、一方でイメージでしかないものが混在している。例えば共生首都圏では、具体的なイメージに、今までのポテンシャルが生かされていない。

#### 委員

- ・夢やイメージは後での味付けなのだが、資料を読んでいると、2 ページの基本的な考

え方と、次に3ページの目指すべき方向が、逆なように思う。

- ・果たすべき役割と目指すべき方向があって、解決に向けた基本的な考え方、というか方策だが、ここをもう少し書き込んでいけば、プロジェクト化していく道筋がもう少しわかりやすくなるのではないか。これではずっと考えてばかりいるように見える。
- ・4ページに他力という言葉があるが、他力と言うのは仏教界で用いられる使い方の微妙な言葉である。関係団体からクレームが来ることもあるので、避けたほうが良い。

#### 座長

- ・骨子の順番は、協議会でオーソライズされているので、手遅れであるが、中間整理を作るときには、なるべく配慮することとする。
- ・一番議論していただきたいのは、コアプログラムである。

#### 委員

- ・持続可能性のところには、いわゆる環境だけではなく、人間が作ったインフラや社会システムも含まれる。今の状況は悪くない、だから今ある良いものを長く維持しようということ、環境問題だけではなく社会も含めて維持していくという筋があるといいのではないか。

#### 委員

- ・コアプログラムの実行によって今の状況を良くしていける可能性があるものもあると考える。例えば、高精度位置情報では、過去の地図は測位情報が曖昧で、問題が生じているが、それを書き換えるとさらに問題が起きるので出来ない。そこで、正確な地図を作るための手法を確立し、ロールモデル的なプロジェクトをやると良い。
- ・今後の課題として、このようなプロジェクトを早く予算化し、インフラに取り込むことで、東京オリンピック・パラリンピックまでに様々なサービスの可能性が広がるのではないか。
- ・交通に関して、東京オリンピック・パラリンピックのような大規模な混雑状況をシミュレートできる技術も存在するので、早い段階から活用していくと良い。

#### 委員

- ・協議会の議事要旨を見ると、未病については相談させてほしいと記載がある。私は未病という言葉はわからないし、世間もわからない。予防の重要性、二次予防の重要性はわかっていること。ここでいう未病の定義と重なっているので、どう実行するかがカギ。聞きたいのは、神奈川県が言っている未病を治す取組が、具体的にどのような取組をしているのか、具体的に示してほしい。私自身は予防で良いと思う。
- ・資料2-1の50ページに、③病院、診療所の最適再配置というものがある。コンパクトシティに集中してサービス提供という、意味するところはわかるが、医師の偏在をまづ何とかして欲しいという状況の中では、誤解を招くのではないか。

#### 委員

- ・自分は東京都の事業評価委員であり、多くの住民の意見を聞く機会があるが、年配者の意見ばかりで、若者の意見はでてこない。
- ・おもてなしという言葉があるが、日本以外の国はほとんどが強烈的な格差社会である。そうした金持ちの人からいわゆる貧乏な人までが日本にやってくる。日本は、格差なき社会が前提なので、満たされない。平均的な国家になっているので、分布のある質的飛躍をしたほうが良い。
- ・東京の空気がきれいだと言うが、公共交通機関が発達しているのも事実。

しかし通勤地獄があるのも事実であり、こんなところに行きたいと外国の若者は思わない。成田から通勤でグリーン車を使う人が多くなった。すし詰め状態の交通対策をどうするかということについては入れ込む必要があるのではないか。

- ・ 119 番に電話してから病院に着くまでの時間が、先進国と比較して長すぎる。いつも物流の交通体系を検討するが、救急車が早く着ける道路体系、そういうことがターゲットになり得るのではないか。
- ・ 10 年くらいに前に、相模川の上に今の新幹線の駅を作るという話があった。その時は、品川駅を優先するという事になったが、神奈川県でいえば相模川沿いは新幹線に乗るときには相対的に不便な地域。もう一度、新幹線駅の配置を考えたほうが良いのではないか。
- ・ オリンピックをやるのに、新国立競技場を作るが、このために神宮の森の木が約 2000 本切られている。それなのに、生物多様性だとか、環境保全はどうするかと言う話になっている。東京では川に蓋をしたり、埋めてきたが、それらを掘り起こして、水辺の環境を良くするという事もあり得るのではないか。
- ・ 農業について、リン肥料が枯渇しているため、流域外からリン肥料を入れなくて、流域内だけで循環させるような農業はどうか。今は中国の鉱山だけでリンを作っているのだから、そこがストップすれば日本の農業は止まってしまう。結果的には水質を良くすることにもなる。

#### 委員

- ・ 資料 1-1 の 4 ページ目にコアプログラムのたたき台とある。2 ページ目の考え方は非常にわかりやすいと思うが、4 ページと整合していないところに、わかりにくさがある。
- ・ 今回の計画は必ずしも首都圏の住民や来訪者等に直接向かっているメッセージ性が強くない。行政計画としてわかりやすく網羅していることに意味がある。建て付け方からすると、安全、環境、生活、活力等の従前から国土交通省で重要だと言っている軸で整理したほうが良いのではないか。
- ・ コアプログラム A の「データ蓄積」というのは、目標を達成するための手段を適切に選択するための条件であり、将来の国土計画を実現するのに役立つものだが、最初に出てくるのは、このページがプログラムなのでどうかなという気がする。
- ・ 同 D、E は、中に入っているものが、必ずしも合致していないのではないか。具体的には、新たな成長基盤の構築については、もう少し首都圏新構造の構築に繋がっていることを具体的に書くとわかりやすい。今のままでは、C のところにあってもおかしくはない。
- ・ 共生首都圏は新たな言葉かと思うが、基本的には自然との共生に限定している。しかし、E の中に入っているものは違うのではないか。自然環境を書くのであれば、目立つようにしたほうが良いのではないか。

#### 委員

- ・ 基本的考え方とコアプログラムの関係、突き合わせ方が難しい。基本的考え方のどこがコアプロに繋がるのかかかわからない。
- ・ 厚生省の白書の中でも未病概念が出てきている。いわゆる予防ではなく未病だという発想の転換は、健康だけではなく、首都圏の広域計画を考えていく上での計画のパラダイムを、問題が起きたら、あるいは起きるからこうしようという発想から、

時間をかけて長期的に見直しつつ問題化させないという視点が求められているのではないか。

- ・災害で言えば、脆弱性のレベルを超えると予防あるいは防災と言ってきた。しかし、全体的に安全性を高めていくことが未災という発想になるのだとすれば、言わば「未災」という発想での地域づくりが求められているのではないか。
- ・インフラに関しても、社会資本の長寿命化の発想は、未病的発想につながっていくのではないか。
- ・コアプロでいうと、レジリエンス首都圏ということが出てくるが、国と自治体が強靱化計画を作るとなっているが、広域計画で強靱化計画を作るという提案は重要で、レジリエンスとはもともと事前防災であるし、それが未病つまり首都圏の未災につながるのではないか。
- ・未病的発想から進めていくと、首都圏広域計画の中でレジリエントな首都圏計画というのが新しい切り口としてあり得るのかなと思う。
- ・世界都市機能の強化と東京一極集中の是正については、まだ論理展開が矛盾している。東京一極集中は、首都圏への、東京圏への一極集中を課題にしている。
- ・国土レベルでの東京の一極集中を考えるべきであり、自ら一極集中を是正することを首都圏広域計画で考えることに無理があるのではないか。
- ・どうやって解決するかということは、小さな日本で、世界都市が3つも4つもあるという時代ではないとすると、東京の役割は、日本を代表する、世界都市のメリットを持たなければならない。
- ・適切な集積は必要であるが、全てを集積することがベストかという点と違うので、必要な分散と適切な配置を国土レベルでやるべきで、内発的に首都圏から分散をと言うことではなく、本来的には対流型国土形成を進めていただくことが、分散化を加速するのではないか。
- ・内発的に分散するということであれば、リスク管理の面から、情報の拠点が東京に来すぎているということは積極的に首都圏計画の中で位置付けるべき。
- ・コアプロのCでは、世界最大の経済集積圏とあるが、必要な集積を促すということで、日本の活力を維持すると同時に、あらゆる事態から首都機能を守り抜くための分散の内容をもう少し整理したほうが良いのではないか。

#### 委員

- ・大概のことは整理されている。原点に戻ると、我々は広域首都圏の計画を作っている。
- ・高齢化の進展とあるが、首都圏の高齢化こそ問題であるということ考えたほうが良い。
- ・地方部では1次産業があるが、都市部でサラリーマンが高齢化した時のために社会参画の場を用意することが大事。
- ・介護施設が少なくなるから大変なのではない。
- ・首都圏の食料自給率を高めようとするならば、東京と東京を取り巻く県が連携して、農業生産法人のような仕組みを作り、都市と農村を行き来する中で、野菜を作りながら、仕事をしてもらい、そのようなプログラムを作る。
- ・キャッチフレーズではなく物語をつくり、これを読んだ人がどう思うかがポイント。
- ・ネットとリアルとの融合とは具体的には何かということでは、サンフランシスコのUBERがひとつの方向性を見せるのではないか。
- ・UBERは、ビックデータによって交通体系を変えていくことを目指しており、スマホでできることである。

- ・日本では規制緩和を前提にしないとできないが、高齢化社会においては、ICT を使って UBER のような仕組みで、高齢者が能動的に動くような仕組みにならなければならない。
- ・相模原が中央リニアと圏央道が重なることになったときに、首都圏で交通システムをどうするのかを考えるべきであり、どういうメリットがあるかを考えるべき。
- ・ドクターヘリだけではなく、医療だろうが、食料自給率だろうが、広域で力を合わせることで、どうなるのかということ、メリットがわかるようなプロジェクトを3つ4つ描くことに意味があるのではないか。
- ・日本が恵まれていることを良く見つめ、思想的に取り入れるべきである。

#### 座長

- ・キーワードは国際競争力の激化となっているが、認識としては国際競争環境が大幅に変わってきた、地政学的な日本の位置づけが変わってきた、という状況変化の方がしっくりくる。
- ・日本もこれまでは強いと思われていたが、状況が変わってきている。激化と言うニュアンスは変えたほうが良いのではないか。
- ・コアプロのAは、ちょこざいに見える。今までデータをインフラとはみなしていなかった中で、実はデータ化されていないものは、ないも同然で、そこをきっちりやるのが重要なのではないか。
- ・コアプロの区分けについては、先生方から意見をいただいたので検討してほしい。
- ・例えば、首都圏新構造の構築とあるが、首都圏は空間であり、空間の構造を変革しようと言っているように見える。新たな成長基盤の構築は空間には見えない。
- ・タイトルと中身が違うとことがあるように思う。コアプロの中には、どこでやるというものがわかるものと、普遍的にやるべきことがあると思うので、明確に分けた上で、資料を作ったほうが良い。
- ・バランス感覚からすると、オリンピックまで5年、震災から4年で、福島はまだストラグルの中にある。産業上の困難な問題を福島が抱えているのであれば、首都圏で支援していくということを書いたほうが良いのではないか。福島を含んだ軸を、もう少し空間の中で言えないか。

#### 委員

- ・福島の話だが、20年ぐらい前に首都機能移転の話があり、地質学の大家の先生は郡山が良いと言っていた。1000年間大地震が来ていないそうである。首都機能というぐらだから、地震が来ないところが良い。
- ・首都の持っている情報データベースのバックアップシステムを福島に持っていく、そういう提案もあるかと思う。

#### 委員

- ・都市の高齢化の問題で、都市の老人はインテリで学歴が高いという特色がある。物理的に健康なのは良いが、医療が進んだために、薬漬けになっている。
- ・大都市の高齢化、異次元の高齢化については、もっと分析する必要があるのではないか。

#### 委員

- ・検討の中で、リニアや北陸新幹線の話があるが、時間距離の概念を広域計画で考えていく中でどう捉えるか。
- ・リニアが出来れば福島に行くより名古屋の方が近くなることを認識しておかねばならない。本当に首都圏が果たすべき役割が見えなくなるのではないのではないか。
- ・リニアができた時の、時空間的な歪みのことも議論しておく必要があるのではないか。

座長

- ・首都圏の顕著な特徴は若者を集めている、留学生も含む学生が多いということ。
- ・教育、技術者作りにクローズアップしてもいいのでは。
- ・太平洋の特定離島は関東にしかない重要な仕事である。もう少し強調して欲しい。

以 上